

渉外・広報委員会（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

以下の関連諸会議に出席し情報を得た。

1. 平成 26 年度第 1 回衛生検査所調査指導中央委員会（2014 年 5 月 1 日）
2. 日本専門医制評価・認定機構平成 26 年社員総会（2014 年 5 月 8 日）
3. 日本臨床検査標準協議会第 9 期総会（2014 年 6 月 2 日）
4. 日本がん治療認定医機構 関連学会連絡委員会（2014 年 9 月 3 日）
5. 平成 26 年第 2 回衛生検査所調査指導中央委員会（2014 年 9 月 11 日）

〔審議事項〕

特になし

社会保険委員会（委員長 稲山嘉明）

〔報告事項〕

下記の通り報告された。

1. 社保委員会での議論で、次回診療報酬改正に向けた要望は、以下が挙げられている。
 - ・細胞診免疫染色（前回要望 400 点、第 1 位要望の予定）
 - ・液状化検体細胞診、増点
 - ・婦人科細胞診スクリーニングにおける自動化加算（未収載。前回要望、40 点）
 - ・細胞診断料（既収載、婦人科細胞診に拡大、240 点）
2. 次期改正にむけての提案書の第 1 次締切予定は、12 月 10 日である。

〔審議事項〕

特になし

地域連絡委員会（委員長 児玉省二）【資料 25P-26P】

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. 平成 25 年度全国地域連携組織活動報告、連合会活動報告を集積予定
2. 平成 24 年度支部活動報告、連合会活動報告は投稿予定
3. 平成 24 年度細胞診検体（定点観測）に関するアンケートの集計（報告済）
4. 全国地域連携組織および連合地域組織との連携：契約終了
地域代表者会議の開催（今年度秋期大会で開催）
5. 「子宮の日」の子宮頸がん検診推進活動支援について
平成 26 年度実施 38 地域に活動報告を提出していただき、実施地域に助成金各 5 万円を支払う準備中。検査士会からの書類提出は、契約した地域連携組織に費用を支払うこととした。
平成 27 年度の支援は、平成 26 年 1 月頃企画書の提出案内を予定。

〔審議事項〕

石井保吉理事より、「子宮の日」を本学会の公益事業として承認して欲しい旨の発言があり、全会

一致で承認された。

国際交流委員会（委員長 内藤善哉）

〔報告事項〕

以下の内容が報告された

1. 2国間交流

- 1) 第21回日本・タイ細胞診ワークショップ
開催日：2014年1月15日(水)～17(金)
開催地：チェンマイ
本学会会員ならびに同伴者を含めて30人が参加
- 2) 第13回日韓細胞診合同会議
開催日：2014年11月1日(土曜日)
開催地：江原道
- 3) 第22回日本・タイ細胞診ワークショップ
開催日 2015年1月14日(水)～16日(金)
開催地：プーケット島で開催予定。
- 4) 第6回日中細胞診合同会議は開催に向けて日程等調整中。

2. 国際・アジアフォーラム

- 1) 第55回日本臨床細胞学会春期大会（会長 中山裕樹）
開催日：2014年6月5日(木)～7日(土)
開催地：横浜（パシフィコ横浜）
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；河合委員、長尾委員
アジア・オーストラリア・米国から演者を招聘
- 2) 第53回日本臨床細胞学会秋期大会（会長 亀井敏昭）
開催日：2014年11月8日(土)～9日(日)
開催地：下関
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；加来委員、南部委員
- 3) 第56回日本臨床細胞学会春期大会（会長 紀川純三）
開催日：2015年6月12日(土)～14日(日)
開催地：松江
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；山口委員、
- 4) 第54回日本臨床細胞学会秋期大会（会長 越川 卓）
開催日：2015年11月21日(土)-22日(日)
開催地：名古屋
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）

担当；榎本委員、

3. 国際交流報告

- 1) カンボジア王国への病理・細胞診断及び病理組織、細胞診標本作製技術に関する交流。

4. その他

- 1) オーストラリア細胞学会 (ASC) の 2015 年の学会に JSCC との協同企画を行ってほしいとの申し入れがあった。
- 2) ヨーロッパ細胞学会 (ECC) の 2015 年の学会で Japanese session を行ってほしいとの申し入れがあった。

[審議事項]

特になし

制度審議委員会 (委員長 川本雅司)

[報告事項]

1. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施

[審議事項]

1. 評議員選任に関する施行細則 会費等に関する規程の改定案：総務委員会での審議事項を参照

IAC 連絡委員会 (委員長 長村義之)

[報告事項]

1. IAC からの連絡事項について報告された。パリの ICC では利益の 50% が IAC に寄付され、寄付総額は 35000 ユーロであった。横浜で開催される ICC 2016 ではそれ以上の寄付が期待されているとのことである。

[審議事項]

特になし

第 19 回 IAC 国際細胞学会準備委員会 (委員長 青木大輔)

[報告事項]

下記についての報告がなされた

1. The 19th International Congress of Cytology (略称：ICC2016)開催要綱
会期 2016 年 (平成 28 年) 5 月 28 日 (土) ～6 月 1 日 (水) (5 日間)
会場 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

Key Dates の決定 (案)

Abstract submission start	September 10th, 2015
Abstract submission deadline	December 10th, 2015
Early bird registration deadline	March 31st, 2016
Hotel reservation deadline	April 28th, 2016
Late registration deadline	May 19th, 2016

第 57 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）との同時開催について

会期 2016 年（平成 28 年）5 月 27（金）～5 月 29 日（日）（3 日間）

会場 パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

演題登録等に関する詳細は未定。

2. 日本学術会議による ICC2016 との共同主催について

日本学術会議に対して共同主催を申し入れ、2014 年 2 月 3 日にヒアリングを受けた。共同主催の採択については保留という返答であった。再申請書類の提出依頼があったので 9 月 5 日に提出した。

〔審議事項〕

特になし

肺がん学会とのワーキンググループ（委員長 池田徳彦）

〔報告事項〕

1. 平成 26 年 11 月 13 日（木）第 55 回日本肺癌学会学術集会にて合同委員会を開催予定との報告がなされた。

〔審議事項〕

特になし

泌尿器細胞診の報告様式に関するワーキンググループ（委員長 金城満）

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. ASC/IAC を母体とする国際的な Paris system group (Prof. Wojcik & Prof. Rosenthal) と連絡を取りながら、泌尿器細胞診の新報告様式を検討し、以下の最終結果を得た。
 - 1) 新報告様式は基本的には記述式とする。細胞の癌らしさ(異型度)は 4 段階(カテゴリー)分類とし、最初に細胞診としては不適切な検体(細胞が全く載っていないもの、高度の血尿のため、剝離高度で上皮細胞成分がないものなど)を置き、全体としては 5 段階評価方式(検体不適 Inadequate、陰性 Negative for malignancy、異型細胞 Atypical cells、悪性疑い Suspicious for malignancy、悪性 Malignant)を取る
 - 2) Paris system group は 2016 年を期限としており、検討の最中であるが、出発の基本合意は HGUC (高異型度尿路上皮癌)の検出と報告を主眼とする事及び検体の適・不適に関しては本邦の新報告様式にも盛り込んだ。しかし、現在の所、LGUC をどう取り扱うかについて、極めて活発な論議がメールを介して行われており、最終決着を見ていない。Paris system と本邦様式と完全に一致するかどうかは現在の所、不透明である。しかし、当委員会としては国際ルールが 2016 年に完成しても、読み替えが可能な方法を考慮する。
 - 3) 各カテゴリーの HGUC のリスクや各カテゴリーの診断基準などの細かい内容は泌尿器細胞診ガイドライン(2015 年 3 月発行予定)に記載する。
2. 本委員会は 11 月の第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会における理事会への最終答申を行い、

学会で新報告様式の全貌を公開し、その後ガイドライン作製を2015年3月に向けて行い、3月末に解散となる。

〔審議事項〕

1. 今後前向き研究による検証が必要であるため、「泌尿器細胞診新報告様式検証委員会（仮称）」の立ち上げ、および教育・普及目的で泌尿器細胞診（別府）カンファレンスへの事業委嘱についての提案がなされた。最終案の周知期間が不足しているため、ホームページで最終案に対するパブリックコメントを求める必要があるとの意見が述べられ、理事会としてもこの意見を支持することとなった。パブリックコメントを求めて最終案が確定した段階で上記の提案について再度審議することとなった。

細胞検査士スライド試験問題集作成ワーキンググループ（委員長 広岡保明）

〔報告事項〕

以下について最終報告がなされた

1. 平成26年4月【細胞検査士細胞像試験問題集】が医歯薬出版社より発刊され、8月末の時点で960部販売。
2. 平成26年10月に第53回日本臨床細胞学会秋期大会の抄録集に問題集の広告が掲載された時点でWGは終了した。

〔審議事項〕

特になし

細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ（委員長 内藤善哉）

〔報告事項〕

以下の通り報告がなされた

1. 第55回日本臨床細胞学会総会（春期大会）で、婦人科（子宮体部・卵巣・外陰/膣/子宮頸部）、甲状腺、乳腺、体腔液の各委員長よりガイドライン内容について発表
2. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会にてリンパ節/血液、消化管、肝胆道系、膵臓、口腔、唾液腺、皮膚/眼器（順不同）の各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
3. 現在、peer reviewが終了、または、進行中で、問題点など金原出版社とともに協議し進めている。
4. 改訂される癌取扱い規約、WHO分類やベセスダシステムについても各臓器で検討。
5. 分冊の総論（暫定名称）部分についても、原稿が纏まりつつある。
6. 次回（第7回委員会）は、第53回日本臨床細胞学会秋期大会時に開催を予定
7. 2015年3月、細胞診ガイドライン発行予定。
8. 第56回日本臨床細胞学会総会（春期大会）で、未発表臓器の各委員長より内容の発表予定。

〔審議事項〕

特になし

口腔細胞診ワーキンググループ（委員長 関根浄治）

〔報告事項〕

1. 口腔細胞診精度管理 study の途中経過について報告された。

〔審議事項〕

特になし

婦人科臨床試験ワーキンググループ（委員長 青木大輔）

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」（山梨県、千葉県柏市）
2014 年 8 月 31 日現在、13,712 人の登録があった。現在、2 年目のフォローアップ症例について受診勧奨を行っている。
2. 本臨床研究の呼称を、CITRUS (Cervical cancer screening Trial by Randomization of HPV testing intervention for Upcoming Screening) Study として関係者に周知した。

〔審議事項〕

1. CITRUS Study のホームページの新規開設、および日本臨床細胞学会のホームページへリンクさせたい、との要望があり、承認された。
2. 研究協力費の増額について：現段階で研究協力費が不足しており、250 万円の追加予算の申請があり、了承された。

日本臨床細胞学会雑誌電子ジャーナル化ワーキンググループ（委員長 竹島信宏）

〔報告事項〕

1. 編集委員会〔報告事項〕1. と同様

〔審議事項〕

1. 編集委員会〔審議事項〕1. 2. と同様

頸部細胞診の自動化判定に関する研究班（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 研究班の 9 施設から回収した約 12,000 例の自動化判定、そこから抽出された症例に対する再検討がほぼ終了し、外部機関に統計解析を依頼している。
2. 付随研究として、細胞検査士による評価者信頼試験を実施中（各施設に標本を回覧中）である。
3. 第 56 回春期大会で、研究総括の報告をさせていただければと考えている。

〔審議事項〕

特になし

細胞診用語解説集作成ワーキンググループ（委員長 竹島信宏）

電子媒体で用語解説集の作成をガイドラインと並行する形で行っていることが報告された

理事候補者選挙管理委員会（委員長 青木大輔）

〔報告事項〕

全国選出理事候補者選挙結果について

2014年10月4日に開票が行われ、下記の22名が選出され、10名の次点が決定した旨の報告がなされた。

当選者（五十音順）：

青木大輔，池田徳彦，石井保吉，伊藤仁，植田政嗣，岡本愛光，加来恒壽，
加藤久盛，河原栄，紀川純三，越川卓，小松京子，齋藤豪，佐藤之俊，竹島信宏，
内藤善哉，中村直哉，藤井多久磨，前田一郎，森井英一，森谷卓也，八重樫伸生

次点者（上位より掲載）：

横山繁生，広岡保明，岡輝明，九島巳樹，谷山清己，井上健，稲山嘉明，
平井康夫，関根浄治，今野良

9 審議事項

1. 会員資格喪失者の会員資格復活について：会費滞納に伴う会員資格喪失者のうち4名より内規に則った復活申請が行われたため、審議した結果、全員の会員資格復帰が認められた。
2. 第58回（2017年）春期大会の会長選出について：植田政嗣理事が推薦され、承認された。
3. 青木大輔副理事長より、厚生労働省科学研究委託事業「平成26年度HPV検査検証事業のフォローアップ調査事業の実施について」（研究代表者：国立がん研究センター齋藤博）から本学会会員へのアンケート調査実施の要請があり、学会として協力することが承認された。

10 その他

特になし

閉会の挨拶：青木大輔 副理事長


以上を以って本理事会の議題が終了し、平成26年度第2回理事会を終了した。

平成 27年 5月 19日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐々木寛 

監事 柏村正道 

監事 長谷川壽彦 

監事 長村義之 